第43回日本水環境学会年会優秀発表賞（クリタ賞）を受賞して

鹿児島大学大学院理工学研究科生体工学専攻　小　峯　理恵子

この度は，日本水環境学会年会優秀発表賞（クリタ賞）という名誉ある賞をいただけたことを，大変嬉しく思っております。学会関係者の皆様，㈶クリタ水・環境科学振興財団の皆様および審査していただいた先生方に厚くお礼申し上げます。

私は，ヒ素化合物の形態別分析（スペシエーション）について研究しています。ヒ素化合物は，自然界に様々な化合物として存在しています。化合物ごとの急性毒性で比較すると青酸カリと同程度の毒性を持つものから砂糖以下の毒性しかないものまで様々な種類があるため，ヒ素は全量分析ではなくスペシエーションを行う必要があります。ヒ素スペシエーション法としては，一般的に用いられている HPLC 法と，HPLC 法より簡易な装置を用いて短時間で測定できるために近年注目されはじめている超低温捕集法（CT 法）があります。本研究では，２つの方法について前処理から測定結果までを比較し，CT 法の有用性を明らかにすることを目的としました。本研究の結果から，水環境中の生物に含まれるヒ素化合物のスペシエーションについて，CT 法が HPLC 法に匹敵する方法であることがわかりました。

今回が私にとって始めてのポスター発表でした。ポスターの制作や説明の練習等，一生懸命努力しましたが，拙い点も多々あったと思います。会場でもその点についてのご助言をいただけたことで，二度目のコアタイムでは改善し，よりわかりやすく説明できたと感じております。今回の受賞は，多数のご助言をいただいた皆様のおかげです。また，より濃密なディスカッションができたことや，近隣でポスター発表していた他大学の方々からたくさんの刺激を受けたことなど，口頭発表にはない貴重な体験を得ることができました。とくに，ポスターの前で足を止めた方々からいただいたご意見とご質問は，今後の研究の方針を決める上での貴重な糧として研究室の全員で共有させていただきます。

最後に，研究の遂行のためにご指導を賜りました鹿児島大学の大木章先生，高梨啓和先生，中島常憲先生，大山謙二技官，アルセノ糖類溶液をご提供いただいた産業技術総合研究所の黒岩貴芳様，貴重な助言をいただいた本研究室卒業生の皆様，様々な面で支えてくださった生体工学専攻の皆様ならびに家族に，心よりの感謝を申し上げます。

関東学院大学大学院土木工学専攻　長谷川　　駿

はじめに，この度は日本水環境学会年会優秀発表賞（クリタ賞）を授与いただき，誠にありがとうございました。㈶クリタ水・環境科学振興財団の皆様，学会関係者の皆様，審査に関わられた委員の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は，循環式浴槽システムにおけるトリハロメタンのリスク評価に関する研究を進めて参りました。循環式浴槽は，その構造上絶えず水を循環させ，その都度塩素消毒を行っているため，トリハロメタンが生成されやすく，我々がこれまでに行った実態調査の結果からも比較的高濃度のトリハロメタンの存在が確認されました。そこで，本研究では温浴施設の利用を考慮した際のトリハロメタンの発ガンリスクに関する評価を行うことで，今後の適正な水質管理に寄与することを研究目的といたしました。

その結果，温浴施設の利用を考慮した場合のトリハロメタンの発ガンリスクは決して無視することのできないレベルであることを明らかにしました。

ポスター発表の会場では多くの方々にご質問，ご意見等をいただいたことで活発な議論を交わすことができ，大変貴重な経験をさせていただきました。また，この様な立派な賞をいただくことができたことは，技術者を目指す私にとって大きな励みとなりました。本研究は，近年水の有効利用の観点から急速に普及している循環式浴槽の適正な水質管理に関連するものであり，今後注目すべき事象であると考えています。今回の経験を活かし，今後，より継続的な検討を行うことで，水の有効利用と安全管理が可能になると考えております。

最後に，本研究を遂行するにあたり終始手厚いご指導をいただきました関東学院大学工学部社会環境システム学科鎌田素之准教授，野知啓子技師をはじめ，試料等をご提供いただきました㈱ユアテック赤井仁様，計測機器をご貸与いただきましたメタウォーター㈱山口太秀様，いつも研究を共にし，私を支えてくださいました環境衛生工学研究室の諸兄諸姉，そして家族に対し心より感謝申し上げます。